

國學院大學學術情報リポジトリ

研究所ウェブサイトのリニューアル

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.57529/00001810 |

研究所ウェブサイトのリニューアル

2011年度には、日本文化研究所プロジェクト「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」ならびにデジタル・ミュージアム・ワーキンググループ（DMWG）の活動の一つとして、本研究所ウェブサイト（<http://www.kokugakuin.ac.jp/oard/index2.html>）のリニューアルを行ったので、その概要を報告したい。

日本文化研究所は、2007年の改組により研究開発推進機構となり、その機構内の一つとしての日本文化研究所となった。すでに旧・研究所時代から多くのデータ類をともなった研究所ウェブサイトが構築されていたが（<http://www2.kokugakuin.ac.jp/ijcc/ja/>、現在はアーカイブとしてのみ稼働）、2008年11月に行われた全学的なウェブサイト・リニューアルにより、現行のサイトに移行した。

現行のサイトは、ALAYAというシステムで入力・構築されている。これにより、全学共通のフォーマットで、各学部・機関・部署のページが閲覧できるようになっている。

全学的な移行以降、3年以上にわたり、現行のシステムで研究所サイトが構築されてきた。しかし、ALAYAは共通のフォーマットで提供できる利点がある反面、あまり自由度が高くない。また、各機関ページ内のメニューバーの初期設定も限定されており、それほど自由には増設できなかった。具体的には、メニューバーは「概要」「構成員紹介」「事業紹介」の3つのみであった。従来のサイト構成を振り返っておくと、「構成員紹介」については、研究所スタッフの一覧画面であるので特に大きな問題はなかった。だが、

「概要」には、研究所の紹介文と所長挨拶／設立の趣旨／設立の経緯に加えて、研究所関連のイベント情報や、関連プロジェクト・研究ページなどへのリンクが押し込まれていた。他方、「事業紹介」には現在進行中の2つのプロジェクトの紹介に加え、過去のプロジェクトや過去のイベントの記録、デジタル・ミュージアム（DM）や神道事典（Encyclopedia of Shinto, EOS）などのコンテンツ、刊行物の情報などが全て押し込まれていたのであった。「概要」「構成員紹介」「事業紹介」という限られたメニューのなかでやりくりすることが求められていたとはいえ、これでは第一にサイト訪問者・利用者にとって使いにくい。何らかの形で本研究所サイトへのアクセスを得たとしても、たとえばDM・EOSなどへのリンクや刊行物の情報がどこにあるのかわからなければ、サイトとしての意義は半減してしまう。これは、研究所スタッフにとっても同様に感じられていたことであった。必要に迫られて過去のデータ類にアクセスしようとしても、どこに行ってもよいか一見してわかりにくいような状況だったのである。

以上のような問題意識が、DMWGの場において提示され、話し合わせ、共有された。こうした問題は、何も日本文化研究所だけに限られたものではなかった。現に、機構内の他機関のサイトを見ても、校史・学術資産研究センター、研究開発推進センター、伝統文化リサーチセンター（2011年度で事業終了）、博物館学教育研究情報センターのものは、「概要」「構成員紹介」「事業紹介」のみで構築されている。学術資料館（考古学資料館・

神道資料館)は、3つに加えて「収蔵資料紹介」のメニューバーを増設し、コンテンツ紹介にあてている。なかにはリンクが多くなっているようなページも散見される。今後、コンテンツがより充実した後も、利用しやすいようなサイト構築がやはり必要とされていたのであった。

こうした状況を受けて、まずは改善のモデルを提示するという意味もこめて、日本文化研究所サイトからリニューアルを行うこととなった。

改善の具体的な一手としては、メニューバーの増設である。これまでのコンテンツを検討し、「概要」「構成員紹介」「事業紹介」という従来のものに加えて、「刊行物一覧」「成果公開」「関連サイト」を増設する案を立てた。さらに、英文紹介のページである「Info in English」も加えることとなった。

改善後のサイト構成を簡潔に示したものが、以下の図である。主な改善点について、箇条書きにして整理しておく。

◇「概要」ページ

- ・トップページ化。研究所紹介・概要のみに
- ・開催予定のイベント情報は機構サイトへのリンクを提示

◇「構成員紹介」ページ

- ・外国人スタッフ名の原語表記

◇「事業紹介」ページ

- ・プロジェクト紹介（現行・過去）に特化

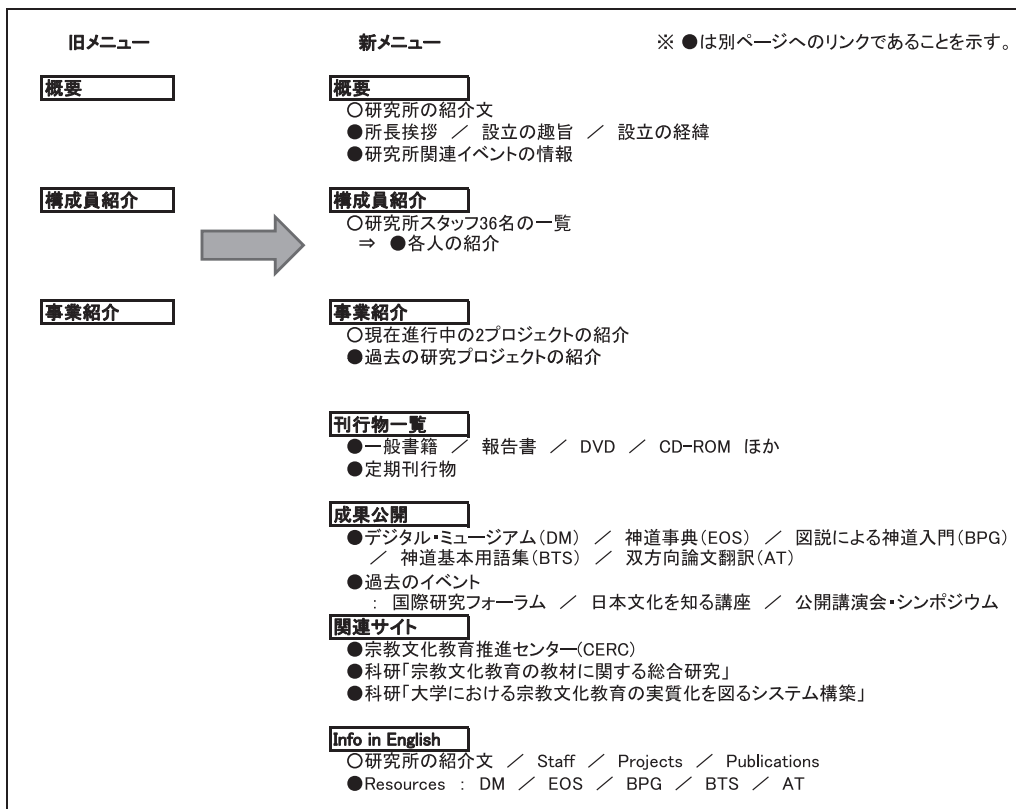
◇「刊行物一覧」ページ

- ・「定期刊行物」情報は機構サイトへのリンクを提示（機構関係の定期刊行物は機構サイトに一元化の方針）

◇「成果公開」ページ

- ・各コンテンツの英語表記の追加
- ・過去のイベント情報の整理

図 日本文化研究所ウェブサイトの新旧メニューと構成



◇「関連サイト」ページ

- ・リンク先の整理

◇「Info in English」ページ

- ・外国語閲覧者に向けたシンプルなガイドページとして新設

以上の改善を経て、全体として、メニューを頼りに、必要な情報やコンテンツがどこにあるか、現在どのような事業や活動が行われているのか、分かりやすくなり、大幅にアクセスが改善されたということが言えよう。また特に、「Info in English」ページの新設や英語表記の充実などを通じ、サイトを訪問した外国語閲覧者に対してのガイド機能が向上した点も指摘できる。

本研究所サイトのリニューアルが、今後、機構内他機関や学内他機関がウェブサイトを改善する際の一つのモデルケースやヒントとなれば幸いである。

ただし、課題もまだある。主な点では、

- ・アーカイブとして機能している旧サイトの

コンテンツ類の完全引き継ぎ（本研究所関連情報へのアクセスの一本化）

- ・「構成員紹介」ページのスタッフ名読み仮名のローマ字表記への置換
- ・「刊行物一覧」ページの各刊行物についての情報統合と形式統一の徹底

などが挙げられる。これらの改善を進めたい。

DMやEOSをはじめとする研究開発推進機構ならびに本研究所のコンテンツは、教育現場での活用という点においても、非常に高い参照力と活用可能性を持つことは疑いない。また、毎年国際研究フォーラムの開催などを通じて、あるいは国際的な学術成果発信という点からも、その発信力が求められている。しかし、ウェブサイトの不便さなどのためにそうしたアクセスが妨げられているとしたら不幸なことである。今後も、単に情報の掲載のみをもってよしとするのではなく、利用者目線に立って、サイト構築と改善を行っていきたいと考えている。

(塚田穂高)

The screenshot shows the website of Kokugakuin University. At the top, there are navigation links for Japanese, English, Simplified Chinese, Traditional Chinese, and Korean. Below that is a search bar with a Google Custom Search logo. A horizontal menu lists various departments: Literature, Economics, Law, Religion/Culture, Human Development, Graduate School, Law School, and Research Advancement Organization. The main banner features the text '神道と日本文化の研究・発信拠点' and '研究開発推進機構' (Organization for the Advancement of Research and Development). The page title is '日本文化研究所' (Institute for Japanese Culture). A sidebar on the left contains a menu with items like '概要' (Overview), '構成員紹介' (Staff Introduction), '事業紹介' (Business Introduction), '刊行物一覧' (List of Publications), '成果公開' (Publications), '関連サイト' (Related Sites), and 'Info in English'. The main content area includes a date '2012年4月23日更新' and a paragraph of text about the institute's history and mission.

日本文化研究所ウェブサイトトップページ